

日本製薬工業協会 会長 あいさつ



日本製薬工業協会 会長

畑中 好彦

日本製薬工業協会(製薬協)は、革新的で有用性の高い医薬品の開発と製薬産業の健全な発展を通じて、日本および世界の人々の健康と医療の向上に貢献することを目指す研究開発志向型製薬企業より成る団体です。

製薬産業を取り巻く環境は、少子高齢化、医薬品市場のグローバル化、再生医療などの新規産業の進展、薬価制度・税制に関わる様々な政策導入、各国における政治的環境変化などの社会的要因や政治的要因により、日々目まぐるしく変わっています。このような変化の激しい環境にあっても、私たちに課せられた生命関連産業としての使命は今後も変わることはありません。

昨年度、製薬協および製薬協会員会社が目指すべき姿として「製薬協 産業ビジョン2025」を策定しました。本年度はこのビジョンの柱である「世界に届ける創薬イノベーション」を具現化する第一歩として、次の4つのテーマを重要課題として取り組んでまいりました。

- (1) イノベーションの促進による医療の質の向上、経済発展への貢献
- (2) 国際展開の推進とグローバルヘルスへの貢献
- (3) コンプライアンスの更なる徹底と国民の信頼感の一層の醸成
- (4) 産業理解の一層の推進

今後も、常に世界に目を向け、研究開発費の投資を通じて会員会社それぞれがイノベーションの促進に尽力するとともに、厚生労働省、医薬品医療機器総合機構(PMDA)、関連各団体やアカデミアとの連携を一層強化し、ビジョン実現に向けたあらゆる活動を通じて、社会に対する価値・貢献への理解促進のために努めてまいります。

事業活動を推進する上で、地球規模での環境問題は、喫緊の課題の一つです。製薬協は、2015年12月に開催された国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)で採択された「パリ協定」を踏まえ、業界としてさらなる低炭素社会の実現に向けた環境保全の取り組みにまい進するとともに、環境負荷を低減し、自然環境と事業活動が調和した「持続可能な社会」の構築と進展に貢献してまいります。

今年度は、1)省エネルギー・地球温暖化対策、2)省資源・廃棄物対策、3)化学物質管理、4)労働安全衛生管理に関する取り組みを事業計画に掲げ、環境安全委員会が中心となって計画を推進いたしました。特に、省エネルギー・地球温暖化対策、省資源・廃棄物対策については、今後も日本製薬団体連合会と連携し、経団連低炭素社会実行計画や循環型社会形成自主行動計画を達成する責任を果たしてまいります。

製薬協は、今後も「世界の人々の健康と福祉」および「日本の経済成長」への貢献を目指すとともに、環境・安全に関する活動を積極的に推進し、患者さんを始めとする様々なステークホルダーの皆様との対話を通じて、社会からの期待に応えてまいります。